

## 発刊にあたって

このたび、研究誌『日韓相互認識』を発刊することになったが、その狙いを簡単に説明することによって、巻頭言に代えたいと思う。

近年、「歴史認識」の問題が、東アジアにおける国際関係を不安定化させる重要な要因として、大きな注目を集めるようになってきている。この問題は、各々の国民国家がその国民的統合の基盤としている「記憶の共同体」相互の相克や摩擦という側面を有するだけに、問題の処理を誤まるならば、深刻な政治問題に発展する可能性を常にはらんでいる。「記憶の共同体」同士の衝突が互いのナショナルリズムを刺激し、相互の応酬を通じてナショナルリズムの負のスパイラル現象が生ずる可能性が否定できないからである。事実、靖国神社問題や歴史教科書問題では、

そのような状況が生まれつつある。

こうした状況の中にあつて、今、歴史学に求められているのは、この「記憶の共同体」をいかに歴史的に相対化するか、という学問的試みである。すなわち、様々な記憶相互間のせめぎあいと国家や社会諸集団による関与の過程をへて、「記憶の共同体」がいかに形成されるのかを、具体的に明らかにすることである。その際、重視したいのは、他者認識の問題である。日本の場合「記憶の共同体」の核をなすのは、同じ歴史、文化、伝統を共有するとされる「日本人」としての同朋意識だが、この日本人としてのアイデンティティは、他者認識と密接不可分の関係にある。

この研究誌では、東アジア世界の中の日朝関係に焦点

をあわせながら、日本の側の対朝鮮認識がどのようにして歴史的に形成されたのかという問題を朝鮮の側の対日本認識の形成と関連させながら、歴史具体的に明らかにしたい。同時に、この研究誌には、前近代の日本史研究者と近現代の日本史研究者、さらには、日本史研究者と朝鮮史研究者との相互交流の場という性格も持たせたいと思う。したがって、間口を少し広く取って、日朝関係史の枠組みに必ずしも収まりきらない論文についても、積極的に掲載していくつもりである。

なお、掲載論文は、科学研究費補助金 基盤研究(A) 研究代表者・吉田裕 研究題目「日本・朝鮮間の相互認識に関する歴史的研究」の研究成果の一部である。

吉田 裕

二〇〇八年二月一二日